

令和7年度 第2回はんだ環境パートナーシップ会議録

開催日時	令和8年1月27日(火) 10時00分～12時00分				
開催場所	半田市リサイクルセンター2階 大会議室				
会議次第	1. 施設見学(リサイクルセンター) 2. リサイクルセンター見学ツアー～キツネにあえるかも～ 3. その他				
出席委員 ※敬称略	会長	千頭 聡			
	委員	牧野 純子	竹内 寿徳	小川 彰子	
		神戸 繁明	安達 典孝	榊原 靖	
		飼沼 亜紀子	石川 毅		
欠席委員 ※敬称略		杉江 桂	石田 英嗣	高原 英樹	
		後藤 和也			
出席職員	事務局	市民経済部長	大山 仁志	環境課長	太田 敦之
		副主幹	森下 直孝	副主幹	山田 隆康
		主査	井戸 敏史	主事	片山 高也
次第	<p style="text-align: center;">議 事 概 要</p> 各委員の発言は、市民・団体の代表としての発言ではなく、あくまで個人としての発言です。				
	<p>(環境課長)</p> 定刻となりましたので令和7年度第2回はんだ環境パートナーシップ会議を始めさせていただきます。 本日は、大変お忙しい中、本会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。 なお、本日、石田委員、高原委員、後藤委員につきましては、所用のためご欠席の連絡をいただいております。 また、限られた時間の中でございますが、忌憚のないご意見を頂戴いたしますようご協力をお願い申し上げます。 それでは、本日はリサイクルセンターの見学も予定しておりますので、進め方につきまして、事務局より説明いたします。				
	<p>(事務局)</p>				

本日は次第にありますとおり、施設見学をしたのち、戻ってきていただいてから、ご意見を伺う形をとりたいと思います。

昨年度のパートナーシップ会議で牧野委員から提案いただいた「環境大学」事業について、具体的な事業案の検討をはんだ環境 PS 会議推進部会で進めました。推進部会には安達委員、牧野委員、飼沼委員にも参加いただいておりますが、今回、今年度末に実施予定のイベントについて、事業案を考えてまいりましたので、ご意見をいただきたいです。

今回実施するイベントでは、ごみ減量の意識づけを図るため「リサイクルセンター見学ツアー」を実施します。推進部会では、ゆめくりんにごみが持ちこまれ、焼却されたあとの焼却灰が半田市へ戻ってきていることが知られていないこと、また、今のリサイクルセンターで何を行っているか知られていないことを課題に捉え、まずはリサイクルセンターの施設について知ってもらうことを目的に、本イベントを実施することとしました。

本事業の内容については、ご説明させていただく前に、一度リサイクルセンターを見学いただいてからの方が、イメージがわきやすいと思いますので、まずはリサイクルセンターの見学を行い、のちにご意見を伺う形で進めていきたいと思います。

貴重品はお持ちいただきながら、荷物は部屋に置いていて構いませんので、移動をお願いします。

---

### リサイクルセンター見学

---

(事務局)

寒い中ありがとうございました。

「リサイクルセンター見学ツアー～キツネにあえるかも～」の実施計画について、事務局からの説明に入る前に、安達委員、牧野委員、飼沼委員に、どういった思いでこの事業を検討してきたか、少しお話をいただいてから、事業内容を説明させていただきます。

(委員)

推進部員の中には焼却で終わっていて、最終処分はもうしていないと思っている人がいました。これを市民にいかにアプローチするか考える中でイベントとして市民に知らせるのがいいのではと考えました。

(委員)

以前からクリーンセンター時の焼却炉が残っているうちに見学ができればよいと考えていました。危険な場所もあるので、厳選しないといけないが、参加者から様々な気づきが生まれるといい。センター内に生息跡を見つけたこともあり、興味を引くひとつとして「キツネにあえるかも」というサブタイトルを付けました。

(委員)

---

## 1. 施設見学

---

## 2. リサイクルセンター見学ツアー～キツネにあえるかも～

推進部会の中には若い方、キツネを好きな方、様々なことに関心を持って活動されている方がいます。高くて煤まみれになっているところ、屋上の煙突など今日行ったコース以外のところも見せてもらい、施設全体に関心を持ちました。また、空き缶を見て、缶バッチづくりなどするといった思い出になると思いました。

(事務局)

ありがとうございました。何か質問等あれば声をお聞かせください。

(委員)

無人カメラにはキツネ以外にも何か写っていましたか。

(事務局)

狸が2匹写っていました。

その他、特に質問等ないようなので、事業内容について資料③に基づき説明します。

#### 1. 事業の目的

本ツアーの目的は、まずリサイクルセンターの役割や仕組みを実際に見て学んでいただくこと。資源のリサイクル促進やゼロカーボンの推進に対する意識の向上を図りたいとするものです。

また、最終処分場の実態を理解することで、ごみ減量の必要性を体感してもらい、具体的な行動変容も目指します。

さらに、当センターの敷地内でキツネの生息形跡や無人カメラに映った姿が確認されていることから、生物多様性の保全という視点も加え、環境に対する幅広い関心を促進したいと考えています。

#### 2. 実施概要

日時：3月25日(水)、場所：半田市リサイクルセンター

参加対象・人数は、在住・在勤・在学の方、定員は20名

主催：はんだ環境パートナーシップ会議推進部会が中心となり運営。

#### 3. スケジュールは、

9時30分に集合し、はじめにリサイクルセンターの機能説明と、水切り紙袋作りの体験を予定。

その後、施設見学と最終処分場の見学を行います。

最後に質疑応答と感想の共有をして、11時45分に閉会となります。

#### 4. 申込方法・5. お問い合わせは記載のとおり。

以上が今回の見学ツアーの概要です。ごみ問題と環境保全を学びながら、生物多様性にも触れられる貴重な機会になると考えています。

なお、参加申込者が多数の場合は、午前午後の2部制も検討するなど、できる限り申し込まれた方全員に参加いただきたいと考えています。

説明は以上となりますが、ご質問・ご意見等いかがでしょうか

(委員)

私自身、ゆめくりんへ行った後に半田の分は半田の最終処分場へ戻ってくる、ということを知らなかったのも、この見学ツアーは知るいい機会になると思います。他市町ではこういった施設が十分でないところもあるようなので、半田市はしっかりとやれていることを啓発していくことが大事です。見学ツアーの時にはわかりやすい資料を作成して、それを見ながら参加できるとより良いと考えます。

(委員)

まだ使えるものが廃棄されていて、これらを次のもったいないバザールなどで使えないかな、と考えました。特にハンガーや物干し竿は今年出品された洋服の整理時に足りなくて苦労しました。

(事務局)

ハンガーは回収方法を考えます。

(委員)

冷蔵庫など家電を廃棄する際の手続きも知らないことが多かった。郵便局でリサイクル券を購入する必要があること、半田市に持ち込んでもその後に常滑に運ばれて行っているということに驚きました。

(事務局)

家電4品目は常滑の処理施設に直接持って行ってもいいのだが、そこまで運ぶのが難しい人のために半田市リサイクルセンターへの持ち込みでも可能としています。

(委員)

テレビなど新品を買うときに、今はリサイクル費を支払っていない。その分、処分したいときにリサイクル券を購入という流れとなっている。

(市民経済部長)

今回のツアーに参加してくれる人は元々意識が高い人が多いと思うが、リチウム電池やボンベなど正しく処理されないと爆発したりすることで施設の火災につながる物についても啓発を強めていきたいと思えます。

(委員)

自治区で資源を集めたりすることがあるが、リサイクルセンターへ持ち込みの後の裏側を知ることができるいい機会だと思います。

(委員)

自治区で資源回収をもっとやりたいが、業者がなくなっている。月に2回の回収機会まで家に溜めておくことができず、燃やせないゴミとし

て出され、リサイクルにならない。収入になるからと岩滑では山車保存会が主体となって資源回収を担っています。

(委員)

区民館のような場所で常時回収をする所から、缶がたくさん入った袋を持って行ってしまう人がいると聞いたことがあります。

(委員)

集団回収をしているところに名古屋がどこから持ってきたのか調査したところ、集めている所から持ってきていると答えた人が25%程度いたらしいです。

(委員)

燃えないゴミとして出されたものをから、分別して資源にするならいいが、資源回収のところから持ってきてしまうのはどうかと思います。

(委員)

名古屋では4月から出されたゴミの持ち去りを禁止し、罰則が科されるようになります。

(委員)

50万円以下の罰金と違反者に厳しい処分内容となっている。資源に限らず全てのゴミが対象です。

(委員)

半田市はコーン等食料缶も資源として回収がありますか。

(事務局)

リサイクルセンターでは回収しています。アルミ・スチール・食料缶で分けています。

(委員)

食料缶の回収は、自治会では難しいように思います。

ゴミステーションの清掃について教えてほしいのだが、市は関与していますか。

(事務局)

ゴミの収集業者には回収時に簡易清掃を依頼してます。それ以上の清掃については自治区で行ってもらう必要があります。市としては、清掃を義務化してはいませんが、自治区それぞれの事情があるので、自治区のルールに従って、皆さんできれいに使ってほしいです。

(委員)

最近引っ越してきた若い人たちは自治会に加入しないのか、清掃当番は以前から住んでいる人たちで回している状況です。

(委員)

自治会に加入しない人が増加している。新しい人だけでなく、既存の人もどんどん自治会から退会してしまい、残った人で清掃当番を回すため、順番がすぐに来てしまう。

(委員)

半田市への転入時にはゴミを出し方などどのように案内していますか。

(事務局)

家庭ごみの出し方の冊子を渡し、自治会加入の案内も一緒にしています。

(委員)

「働く親を応援するまち」と言っているのだが、ゴミステーションの清掃については配慮がないと思います。夜中に掃除するのも難しく、現実的に当番をすることができないという理由で自治会に入らないという人もいるのではないかと考えます。

(委員)

半田市外に住んでいるが、半田市のゴミステーションの方が近く捨てやすいため、区長へ挨拶をし、清掃当番もする約束で利用している人がいると聞ききます。半田市は他市町に比べゴミを出しやすい環境と聞いたことがあります。

(委員)

見学ツアーはとても有意義でした。最終処分場の水処理までやっているとは知らなかった。ゴミ処理施設をゆめくりんにまとめて良かったことは何かありますか。

(事務局)

ゴミ袋有料化など他の要因の影響もあるが、持ち込みの距離が遠くなったことでゴミの量が減っている。また、環境負荷を軽減することができている。

(環境課長)

コストの削減も大きなメリットです。

(委員)

高温焼却できるようになり、ダイオキシンの排出も抑えられている。

(環境課長)

施設が大きいので、碧南市のごみもゆめくりんで処理できるようになると、採算があがりよいのだが、現在は取り込めていない。

(委員)

見学ツアーについて、せっかく「キツネに会えるかも」といういいサブタイトルがついているので、今後の発展で提案したいことがあります。いいサイズの小石を集めて敷きつめておくと絶滅危惧種のコアジサシが来てくれるのではないかと考える。コアジサシは裸地で繁殖します。

(委員)

草が生えないように手入れする必要があるので、そこは頑張らなければならぬ。

(市民経済部長)

砕石ぐらいはできるかもしれない。

(事務局)

検討します。

(委員)

糞や足跡などでキツネの存在を示唆されていたが、ただ通過しただけかもと考えてました。防犯カメラに映る姿を確認し、本当にここに居るのだと感心しました。これからキツネも単体ではなく、親子など広がりを見せてくれるといい。

(事務局)

ありがとうございました。

以上により、本日の予定はすべて終了しました。

最後、市民経済部長からお礼を申し上げまして、令和7年度のはんだ環境パートナーシップ会議を終了したいと思います。

(市民経済部長)

本日は寒い中ありがとうございました。

ゴミの問題はなかなか解決が難しいが、頂いた助言や意見をもとに頑張っています。

去年は半田市でも鳥インフルエンザが流行ったが、今年はこのまま半田市にて流行ることなく終息を迎えるといいなと思う。

私事ではありますが、還暦を迎えたため市民経済部長として皆様の前に立つことはなくなるが、今後もよろしくお願いします。